



新執行部始動

全日青新会長・塩田義照

行くぜ！全日青！

大地震などの天変地異や飢饉、疾病で民が苦しんでいた鎌倉時代。日蓮聖人は『立正安国論』を著述された。法華経という正しい教えを立て、安心安全な国をつくる。それは、現世をあきらめた多くの人びとに対する優しさだった。

突然、人類の前に立ちほだかった新型コロナウイルス。その影響で第58回全国日蓮宗青年僧千葉小湊結集宗祖降誕800年記念大会は中止された。これを地面に書かれ

に。会議と総会も書面での決議となり、新旧執行部が顔を合わせないまま、全日青第34代執行部は発足した。

未知のウイルスを前に、私たちはあまりにも無力でちっぽけなアリだ。宇宙飛行士の野口聡一氏は「人はなぜ宇宙に行くのか？」と問われ「三次元アリ」の話をした。まず始めに自分をアリだと想像して欲しい。紙の上

全国の青年僧と共に今こそ新しい世界を

た1本の直線として、その上を前後にだけ行進できるアリを「一次元アリ」とする。直線上に現れた石ころという問題に、彼らは進むことができなくなる。だがそこから好奇心ある何匹かのアリが線の外に出てみようと思いつく、するとどうだ。石ころをするりとかわし、次の世界を目にすることができ、横の動きを手に入れた「二次元アリ」となる。次に現れたのは横に延々と続く壁。前後左右の動きしか知らない二次元アリには壁の向こう側を知ることができない。だが何匹かの勇敢なアリが命をかけて上へ登っていく。登ろうとしないアリたちに批判されたとしても。上

た彼らは「三次元アリ」となり、新たな世界への道をつくったのだ。

日蓮聖人も、私たちが壁の向こう側へ行けることを教えてくれている。いま、私たちはどこか足元をしっかりと見つめ、ゆつくりと手を合わせて「南無妙法蓮華経」とお唱えすること。お題目によって不安や恐怖と向き合い、自分なりの一歩を踏み出す。その一歩が集まって生まれた「新しいつながり」は新たな世界を立正安国へと導くだろう。全国の青年僧と共に、一変してしまったこの世界を今よりも一歩前へ、一歩先へ進めたい。◆塩田義照 全日青第34代全日青会長。熊本市正立寺副住職。昭和53年生まれ